平成12年（2000年）8月　　発足記念号

廃棄物学会 東海･北陸地区連絡会 会報

SINCE 1990

No. 1　廃棄物学会 東海･北陸地区連絡会

廃棄物学会 東海･北陸地区連絡会　発足

東海･北陸地区連絡会の発足にあたって

代表幹事　伊 藤 秀 章

廃棄物学会は昨年度で創立 10 周年を迎えて、会員数は 3800 名に達し、全国レベルでの諸行事が盛んになるとともに、各地域に根ざした独自の活動が活発に行われるようになりました。すでに関西地区、九州地区、北海道地区では、地区・支部活動に向けた組織化が始まっています。一方、東海・北陸地区における会員数は 6 頁の会員状況表のように、平成 12 年 1 月現在で東海地区 230 名、北陸地区 104 名、合計 334 名であり、全国の 1 割近い会員を擁するブロックとなっています。平成 10 年度に名古屋で開催された廃棄物学会研究発表会のおりに、東海・北陸地区におきましても、連絡会を設立しようとの声が高まってきました。その後、服部 忠氏（名古屋大学）と辻 喜礦氏（中日本コンサルタント㈱）のご尽力により準備が進められ、私も発起人に加わらせて頂くことになりました。こうして、本年 1 月 20 日に名古屋大学で開催された難処理人工物研究センター主催のオープンシンポジウムを機会に、廃棄物学会東海・北陸地区連絡会が結成される運びとなりました。

当日は、昼食時間をはさんで第 1 回の発足幹事会（出席 : 26 名）が開催されました。まず、東海・北陸地区連絡会設立に至るまでの経緯を世話役の私から簡単にお話し、廃棄物学会事務局の中西正義事務局長からご挨拶をして頂きました。その後、本連絡会役員の選出に入り、発起人の準備した役員案を承認して頂きました。ご承認頂いた常任幹事（15 名）、幹事（18 名）及び代表幹事（事務局を兼ねる）の名簿は次頁に記載のとおりです。平成 11 年度に関する事業としては、連絡会の発足と当日の共催行事のみでしたが、平成 12 年度は、役員会・事務局体制の確立、会報の発行、講演会や市民フォーラムの開催、名古屋大学難処理人工物研究センター国際シンポジウムへの協賛などの企画が提案されました。夕刻の懇親会には 53 名が参加し、廃棄物学会を代表して高月紘副会長（京都大学）からご祝辞を頂きました。

以上のように、本連絡会は順調なスタートを切ることができましたが、今後は役員のかたを中心に、いろいろご相談願いながら活動と運営に当たっていきたいと考えています。まだ、連絡会の状態でありますので、お互いの情報交換とともに会の運営につきましても忌憚のないご意見をお寄せ頂きたいと存じます。

私事で恐縮ですが、本年度から廃棄物学会理事を仰せつかっていますので、学会本部との情報パイプを太くするとともに、辻評議員や他地区の連絡会とも協力して全国の学会支部活動の組織化と活性化に努力する所存でございますので、よろしくご支援頂きますようお願い申し上げます。

廃棄物学会東海･北陸地区連絡会　役員名簿
（五十音順）

（常任幹事）	伊藤 秀章	名古屋大学難処理人工物研究センター
	木曽 祥秋	豊橋技術科学大学エコロジー工学系
	近藤 元博	トヨタ自動車(株)プラントエンジニアリング部
	鈴木 憲司	名古屋工業技術研究所
	辻　喜礦	中日本建設コンサルタント(株)
	戸谷　満	玉野総合コンサルタント(株)
	二宮 善彦	中部大学工学部工業化学科
	萩原 喜之	中部リサイクル運動市民の会
	原口 紘✔	名古屋大学廃棄物処理施設
	藤澤 敏治	名古屋大学難処理人工物研究センター
	藤間 幸久	名古屋大学理工科学総合研究センター
	堀内 將人	大同工業大学建設工学科
	松田 仁樹	名古屋大学難処理人工物研究センター
	松原 基明	名古屋市環境事業局
	山内 睦文	名古屋大学大学院工学研究科
（幹　　事）	浅井 信義	(株)マキノ
	出村 真一	(株)東洋設計施設部
	笠倉 忠夫	豊橋技術科学大学エコロジー工学系
	紙野 健二	名古屋大学法学部
	川合 和之	㈱ＩＮＡＸ経営企画部
	志村　進	大同特殊鋼(株)機械事業部
	下郷 正人	(株)創建環境エンジニアーズ
	高見澤一裕	岐阜大学農学部生物資源利用学科
	高柳 善彦	(株)中央設計技術研究所
	竹内　茂	新日本製鐵(株)名古屋製鐵所
	棚橋 尚貴	中部電力(株)電気利用技術研究所
	谷口　陽	環境開発(株)新保処理場
	土橋　弘	土橋技術士事務所
	坪井　徹	日本ガイシ(株)エンジニアリング事業本部開発部
	服部　忠	名古屋大学大学院工学研究科
	松田　智	静岡大学工学部
	松田 昇一	福井資源化工㈱
	横田　勇	静岡県立大学大学院
（事務局）	伊藤 秀章	〒464-8603 名古屋大学千種区不老町 名古屋大学難処理人工物研究センター TEL 052-789-5854 FAX 052-789-5854 e-mail hitoh@rescwe.nagoya-u.ac.jp

ご案内

（財）科学技術交流財団「土壌・地下水環境保全研究会」成果報告会

「土壌・地下水環境保全研究会」は，（財）科学技術交流財団公募研究として，（故）松林宇一郎名大難処理人工物研究センター教授の主宰で平成１０年度にスタートしました. 広範多岐にわたる土壌地下水環境に関わる問題のうち，①土壌・地下水汚染の物理的・化学的諸過程，②革新的無害化技術，③汚染のモニタリングと管理，④有害物質の環境へのゼロエミッション，を主要な研究課題として活動してきました. 平成１２年３月末で２年間の研究会活動を終了することになり，研究会成果を広く社会に還元すべく，下記の内容で報告会を企画いたしました.

今回の報告会では，社会的な関心も高い「埋立処分場」をキーワードにして，関連する先端技術の一端を報告いたします. 研究会当初に掲げた上記①～④の課題に対する答えは他日を期すこととし，今回は，研究会活動の中で確認できた共通的・具体的な話題で成果報告することに致しました．２１世紀はゴミの時代と言われて久しいわけですが，最終処分場の新規建設は益々困難な状況にあります．次の世代に対して負の遺産を残さないためにも，官・民・学が総意を出し合って制度や技術を構築しなければならない時期です．廃棄物学会東海･北陸地区連絡会の会員諸子からの忌憚のないご批判，ご意見も頂きながら，研究会成果を社会に還元し，土壌地下水環境の創生，保生，再生に役立てたいと考えております．奮ってご参加下さりますようにご案内申し上げます.

記

主催：（財）科学技術交流財団
共催：日本地下水学会，廃棄物学会東海・北陸地区連絡会
協賛：土木学会中部支部，地盤工学会中部支部
日時：平成 12 年 8 月 25 日（金）13:00～16:30（17:00 より懇親会予定）
会場：愛知県産業貿易館　西館９Ｆ＜第 3 会議室（最大 100 名収容）＞（名古屋市中区丸の内 2-4-7）
交通：地下鉄桜通り線丸の内駅下車
参加費：無料
申込方法：科学技術交流財団
連絡先：科学技術交流財団
〒460-002　名古屋市中区丸の内 2-4-7　愛知県産業貿易館西館
渡 邊 皓 治
（Tel: 052-231-1477, Fax: 052-231-5658）

プログラム

13:00～13:20　活動報告と成果概要　　佐藤健（岐阜大学）

13:30～16:20　廃棄物埋立処分に関わるインキュベーション技術
モデレーター　佐藤健（岐阜大学）

13:30～14:00	埋立処分場のニューコンセプト	辻喜礦（中日本建設コンサルタンツ）
14:10～14:35	埋立処分場からのゼロエミッション	土弘道夫（鹿島建設）
14:35～15:00	埋立処分場のライナー技術	広瀬由幸（大日本土木）
15:10～14:40	埋立処分場のバイオリアクター機能	高見澤一裕（岐阜大学）
15:50～16:20	廃棄物からのエネルギー回収	東郷芳孝（鹿島建設）

17:00～　　懇親会（予定）

［参加募集］

名古屋大学難処理人工物研究センター
国際シンポジウム ResCWE 2000

International Symposium on Advanced Waste and Emission Management

（難処理人工物の再資源化・無害化処理に関する国際シンポジウム）

主　催：名古屋大学 難処理人工物研究センター
共　催：廃棄物学会
協　賛：日本化学会、化学工学会、資源素材学会ほか
会　期：平成 12 年 12 月 4 日（月）～5 日（火）
会　場：名古屋大学シンポジオン（〒464-8603 名古屋市千種区不老町）
交　通：地下鉄東山線本山駅下車 徒歩役 15 分（豊田講堂裏）
開催趣旨：

リサイクルや埋立て処分が困難な難処理人工物が大量に排出されている。これらを適正に処理することにより、地球的規模における資源循環型社会の実現が望まれている。本国際シンポジウムでは、海外と国内の著名な研究者を招聘し、廃棄物の適正な再資源化・無害化処理に関する研究発表及び討論をおこなうとともに、各国の廃棄物処理・管理の現状に関する情報交換をおこなうことを目的としている。主要なトピックスとして以下の項目を取り上げ、これらに関する最新の研究成果の発表と討論をおこなう。

① 物質循環及び環境影響を考慮した難処理人工物の最適処理法の評価
② 廃棄物の収集・分離・回収・無害化・リサイクル・最終処分を含むゼロエミッションやインバース・マニュファクチャリングの問題点
③ 各国における廃棄物管理の現状と課題

プログラム

(詳細は URL: http://www.rescwe.nagoya-u.ac.jp/をご覧下さい)

Monday, December 4th, 2000

10:00-10:15
Opening Remarks, Chikabumi YAMAUCHI (Director of ResCWE, Nagoya University, Japan)

10:15-11:15
"*Environmental Management of Wastes in the Semiconductor and Electronics Industries*", Samuel VIGIL (Civil & Environmental Engineering Department, California Polytechnic State University, U.S.A.)

11:15-12:15
"*Clean and Efficient Production of Heat and Electricity based on Waste from Agriculture*", Kim DAM-JOHANSEN (Department of Chemical Engineering, Technical University of Denmark, Denmark)

12:15-13:30
Lunch

13:30-14:20
"*Materials Flow Analysis and Mathematical Modeling to Establish a Zero-emission Network in Regional Area*", Koichi FUJIE (Department of Ecological Engineering, Toyohashi University of Technology, Japan)

14:20-14:40
"*Decomposition of Noxious Gases by a Non-thermal Plasma Reactor*", Liwei HUANG, Katsuhiko NAKAJYO, Takaaki HARI, Shoji OZAWA and Hitoki MATSUDA (ResCWE, Nagoya University, Japan)

14:40-15:00
"*Behavior of Components in Dust and Exhaust Gas from Sealed Steelmaking Electric Furnace. -Development of Direct Recovery System of Valuable Metals-*", Hiroyuki SANO, Takashi YAMAUCHI, Aya NISHIMOTO and Toshiharu FUJISAWA (ResCWE, Nagoya University, Japan)

15:00-15:30
Coffee Break
15:30-16:20
"*Methodological Progress of LCA to Evaluate Waste Management and Circulation System*", Kohmei HALADA (National Research Institute for Metals, Science and Technology Agency, Japan)
16:20-17:20
"*Eco-Design and Eco-Factory*", Günter FLEISCHER (Institute of Environmental Engineering, Technical University Berlin, Germany)
17:50-20:00
Banquet

Tuesday, December 5th, 2000
9:00-10:00
"*Further Development of Solid Waste Treatment in China*", Jian-Hua YAN (College of Mechanical and Energy Engineering, Zhejiang University, China)
10:00-10:20
"*Synthesis and Characterization of Porous Adsorbent from Inorganic-Organic Mixed Industrial Solid Wastes*", Ryo SASAI, Takashi KOJIMA and Hideaki ITOH (ResCWE, Nagoya University, Japan)
10:20-10:40
Coffee Break
10:40-11:00
"*Experimental Investigation on Soil and Groundwater Remediation by Surfactant Flushing*", Yasushi INOUE, Truong Hong TIEN, Shinsuke KUMAGAI and Mehdi BETTAHAR (ResCWE, Nagoya University, Japan)
11:00-11:50
"*Pilot-plant Study on PCB Degradation by Integrated Physicochemical Treatment and Biodegradation*", Kazuhide KIMBARA (Railway Technical Research Institute, Japan)
11:50-13:30
Lunch
13:30-14:20
"*How Does Environmental Accounting Contribute to Sustainable Development?*", Yoshiaki KOGUCHI (Faculty of Economics, Chuo University, Japan)
14:20-15:10
"*Current Status of Gasification and Melting System/Technology for Solid Waste Treatment in Japan*", Yoshinori IMOTO, (NGK Insulators, Ltd., Japan)
15:10-15:40
Coffee Break
15:40-16:40
"*Green Chemistry, Catalysis and Waste Minimization*", Roger SHELDON (Department of Organic Chemistry and Catalysis, Delft University of Technology, The Netherlands)
16:40-16:50
Closing Remarks

参 加 費：一般 5,000 円、学生 2,000 円（懇親会参加者は別途 6,000 円）
申込方法：氏名、所属、連絡先、懇親会出席の有無、送金金額を明記のうえ、11 月 27 日(月)までにファックスまたは e-mail にてお申し込み下さい。送金の銀行振込先：東海銀行本山出張所(名義)レスキユー２０００（口座）普通１２１９４１６
申 込 先：〒464-8603 名古屋市千種区不老町 名古屋大学難処理人工物研究センター
伊 藤 秀 章
(TEL: 052-789-5854、FAX: 052-789-5853、E-mail: hitoh@rescwe. nagoya-u.ac.jp)

○○○○○○○○○　編集後記　○○○○○○○○○

・おかげさまで廃棄物学会 東海･北陸地区連絡会 会報（発足記念号）を発行することが出来ました。皆さまのご意見･ご感想をお待ちしております。
・東海･北陸地区連絡会 会報では、今後、主にこの地区の廃棄物に関する様々なトピックを紹介していく予定です。また、廃棄物関連のイベントの案内･告知の場として、皆さまに活用していただければ幸いかと存じます。
・本会報では、当地区における廃棄物処理及び管理に関する技術･経済･法規のみならず、企業･行政･市民などの様々な立場からの廃棄物に関するご意見を取り上げていく予定です。皆さまのご寄稿をお待ちいたしております。

（T.K.）

東海･北陸地区連絡会 会員状況

平成 12 年 1 月現在

	県	人数
東海	愛知	154
	静岡	44
	岐阜	20
	三重	12
	計	230
北陸	新潟	35
	長野	21
	石川	18
	富山	17
	福井	13
	計	104
	総計	334

廃棄物学会 東海･北陸地区連絡会 会報 No.1
平成 12 年 8 月 7 日発行
廃棄物学会 東海･北陸地区連絡会 事務局
〒464-8603 名古屋市千種区不老町
名古屋大学難処理人工物研究センター
伊藤　秀章
Tel.052-789-5853
Fax.052-789-5854
e-mail hitoh@rescwe.nagoya-u.ac.jp